



救える命、そのために

～救急救命士の病院実習にご協力を～

だれもが自分自身や家族の身に、不測の事態が発生し、救急隊の処置に身を任せる可能性があります。

今、救急救命士が行う救命処置を高度化する取り組みが始まっています。

その一つとして、平成16年7月から、一定の条件を満たす救急救命士による気管挿管（気管内に気管チューブを挿入して、肺に直接酸素を送り込む救命処置）が可能になりました。

ただし、救急救命士が救急の現場で気管挿管を行うためには、事前に必要な知識と技能に関する講習を修了し、試験に合格して、さらに病院（手術室）で全身麻酔をされた患者さんに対して、気管挿管実習の経験（30症例）を積むことが義務づけられています。

- 気管挿管実習 実施病院（中予地区）
- 愛媛大学医学部附属病院
 - 愛媛県立中央病院
 - 四国がんセンター
 - 松山市民病院
 - 松山赤十字病院

なお、病院での実習は、麻酔担当医師の指導・監督の下、事故のないよう万全の体制で行います。また、救急救命士と指導する医師が患者さんに説明を行い、必ず同意のうえで行います。（仮に、同意をいただけない場合でも、手術を受ける患者さんの不利益となることはありません）

一人でも多くの命を救うため、救急救命士の病院実習にご理解・ご協力をお願いします。



〈救急救命士による気管挿管を受けて〉

※ 病院実習にご協力いただいた方の感想です。

私はスポーツの試合で肩のけがをし、手術することになりました。手術をする前に検査などで何回も病院に通いましたが、その際待合室で「救急救命士の気管挿管実習にご協力ください」というポスターを目にしました。

ポスターには、救命率を上げるため病院到着前に救急救命士による気管へのチューブの挿入が開始されることと、それを実施するために経験豊富な救急救命士が研修を受け、協力病院で実習を行っているということが書かれていました。だれがいつお世話になるかわからないことであり、とても良いことだと漠然と考えていました。

私は手術が近づいた検査の日に、執刀医と麻酔科の担当医から気管挿管実習の協力依頼を受けました。新しい救急活動体制には賛成ですが、いざ自分が実施されるとなると不安を覚え、すぐに回答できませんでした。

しかし、救急現場での豊富な活動経験、厳しい研修を受けたことを聞き、また、規定の実習を終え1日でも早く現場で活動すれば、助かる命が増えるのではないかと思い、承諾しました。

担当医から実習について説明を受け、また、救急救命士の方に事前に直接お話することもでき、安心して気管挿管に協力することができました。

手術も無事終わり、気管挿管についても全く問題なく術後も違和感などはありませんでした。

救急車の出動件数は年々増加の傾向にあると聞き、救急隊の活動内容が広がることは必要不可欠だと思います。今後も何かあれば積極的に協力していきたいと思っています。

